

令和6年度 総務文教委員会行政視察報告書

総務文教委員会
委員長 松井 邦人

- 1 視察期間 令和6年10月22日（火）
- 2 視察先及び視察事項
富山市立堀川南小学校
「校内サポートルームの現状と課題について」

3 視察参加委員

委員長	松井	邦人
副委員長	松井	桂将
委員	金岡	貴裕
〃	飯山	勝彦
〃	泉	英之
〃	東	篤
〃	横野	昭
〃	鋪田	博紀
〃	赤星	ゆかり

4 随行職員

議事調査課調査係長	谷端	裕美子
議事調査課主査	中村	千里

5 視察概要

(1) 視察事項

- ・校内サポートルームの現状と課題について

(2) 視察の目的

本市では不登校支援施策として、1つに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置による相談体制の充実、2つに、市内2か所における適応指導教室(MAP)の設置、3つに、富山市子どもの村や富山市ファミリーパーク、富山市科学博物館等の施設における不登校児童・生徒を対象とした体験活動の実施、4つに、不登校児童・生徒の保護者を対象とした相談会の開催に加え、令和6年度から小学校8校、中学校9校に校内サポートルームを設置するなど、様々な施策を進めている。

このうち、富山市立堀川南小学校に設置された校内サポートルームにおける取組や課題について視察し、今後の委員会活動の参考にするもの。

(3) 取組の概要

校内サポートルームは、児童・生徒が思い思いに過ごすことにより心のエネルギーを蓄えることができるような居場所をコンセプトに学校内に整備したものである。利用する児童・生徒は、落ち着ける空間で自分に合ったペースで学習することができる。また、学習以外にも読書、軽運動、イラストや手芸などの創作活動など、やりたいことを自ら選択・決定して取り組むことができる環境である。

富山市立堀川南小学校の校内サポートルームでは、令和5年度の年間欠席日数が30日以上かつ年度末の保護者面談で利用を希望した児童を受け入れており、運営を開始した本年4月からの利用者は9名で、常時4名から5名の児童が利用している。

開設時間は午前8時15分から午後1時までだが、指導員の勤務時間は午前8時15分から午後0時15分であるため、給食時の見守りや下校時の保護者への引渡しは教員が行っている。

校内サポートルームを利用する児童は、読書や工作をしたり、ハンモックに横たわったりするなどして過ごし、時には友達と並んで学習したいと、机を並べて指導員から勉強を教わることもあるとのことである。また、教室での授業の様子を感じ取ったり、教室と連携を取りやすいようにハイブリッドパソコンを設置し、児童から要望があれば使用することとしている。児童の様子は、指導員が作成するサポートルーム日誌を回覧することで担任に情報共有されており、担任も空き時間を利用してサポートルームを訪問し指導員と連携を取っている。

校内サポートルームの設置により、教室ではなかなか自分を出せなかった児童が、サポートルームの仲間に自分の気持ちを表現したり、仲間の様子や表情から自分の行動を振り返り折り合いをつけたりする様子がうかがえ、成長が見られるとのことであった。

今後の課題は、サポートルームに来られなくなった児童や来ることが難しい児童への支援として、新たな部屋の確保や家庭との連携、不登校を生まない学校風土の構築が必要とのことである。

(4) 所感

〔松井 邦人委員長〕

不登校児童・生徒が増加している中、校内サポートルームは子どもたちの学校や教室に入る精神的な負担を和らげる効果があることが分かった。一方、文部科学省は令和元年に不登校児童・生徒への支援は、学校に登校する結果のみを目標にするのではなく、児童・生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指す必要があるとの方針を打ち出しており、指導員は対応に苦慮している現状があった。

今後、各学校に校内サポートルームを設置することが必要不可欠になると思うが、指導員の確保や学校方針に対する理解、別の玄関口や教室の確保などに係る予算確保が課題であり、国や県に対してさらなる要望をする必要があると思う。

〔松井 桂将副委員長〕

今年度より校内サポートルームを設置している富山市立堀川南小学校を視察した。全校児童数が824名のマンモス校である。

学校への行きづらさを抱えている児童の居場所として、常時4名から5名程度の児童が利用している。本市では、現在、適応指導教室(MAP)を豊田地区と婦中地域に開設しており、居場所の選択肢が増えたことで子どもにも保護者にも喜ばれている。文部科学省からは令和元年に不登校児童・生徒への支援は、学校に登校する結果のみを目標にするのではなく、児童・生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指す必要があるとの方針が示されている。この方針を指導員に理解していただくことが課題であると理解した。また、指導員の配置についても、市や県の教育委員会に対し、前向きな予算措置と人員配置を望むものである。

〔金岡委員〕

校内サポートルームの説明を受け、利用している子どもたちがしっかりと交流しており、笑顔でいられることがよかったと感じた。不登校の理由には、先生、友達、家庭環境など、いろいろな理由があるのかもしれないが、校内サポートルームが間違いなく子どもたちの居場所になっている。指導員の勤務時間の都合で半日しか利用できないが、子どもたちの居場所確保のため、予算的な後押しが必要であると感じた。また、中学校との連携について、中学校のカウンセリング指導員が25校中14校にしかいないことは問題であると感じた。

〔飯山委員〕

現在、堀川南小学校の児童数は824名で不登校児童は27名いるとのこと。本年4月から校内サポートルームが開設され、現在までの利用人数は9名で常時4名から5名の児童が利用している。サポートルーム内の床にはマットが敷かれ、ハンモックなども設置されており、リラックスしやすい環境が整えられている。また、他の児童と会いたくない児童のためにテントも常置されており、様々な心のケアに対応できるよう配慮されている。利用する児童は児童玄関とは別の玄関から保護者と共に登校し、下校時も基本的には保護者の迎えが必要である。希望する児童は給食を食べることができ、午後1

時以降は下校するのか自級教室等へ行くのかを選択できるが、サポートルームの指導員は午前8時15分から午後0時15分までの勤務のため、それ以降は空いている教員が対応している。今後、サポートルームを利用する児童が増えていくことを考えると、指導員の確保と勤務時間の見直しが必要だと考える。

〔泉委員〕

富山市立堀川南小学校に校内サポートルームが設置されてから約半年が過ぎた。校内サポートルームは、指導員を通して担任を含めた学校側と不登校児童、保護者がコミュニケーションを構築する場であり、時間はかかっても慌てず、双方の課題を共有し、まずは学校に足を運んでふれあうことで将来の社会復帰に至る芽を育てる重要な空間であると思った。

ただ、いまだ不登校のままの児童に対する小規模特認校への紹介や不登校特例校の設置についても、間髪を入れず取り組まなければならない時期に来ていると感じた。

〔東委員〕

富山市立堀川南小学校の校内サポートルームの本年4月から現在までの利用児童数は9名で、常時4名から5名の児童が利用している。

開設されたことにより、1つに、教員経験のある指導員が毎朝、保護者と面会することで家での様子や保護者の考えを伺うことができ、学校が児童の情報を得やすくなった、2つに、自分のクラスに入りづらい児童がサポートルームに来ることで、登校へのハードルが下がったなどの成果が見られる。

一方、指導員の勤務時間が午後0時15分までであるため給食時の教員の確保が難しく、学校側からは予算を増やして勤務時間を長くしてほしいとの要望が出された。ぜひとも早期に実現したい課題である。

〔横野委員〕

校内サポートルームの説明を受け、不登校児童に対する居場所づくりを行うことで子どもたちが登校できるようになることの重要性を改めて認識した。

私が市職員だった時代に、管理する施設に速星地区の適応指導教室が入っており、四、五人の不登校児童・生徒の対応をしている職員の苦労を見ていたため、この取組についても理解できる。

今後は、サポートルームにも来られない児童の対応も課題であり、指導員の待遇や時間延長、それに伴う予算の増額など、不登校支援に対するさらなる取組が必要だと感じた。

〔鋪田委員〕

暫定的に適応指導教室（MAP）の整備は必要だが、各地区の学校に校内サポートルームが設置されることが望ましいと考える。

指導員については、学校に登校する結果のみを目標にするのではなく、児童・生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指すという方針について戸惑

いもあるようだが、これまでの豊富な教員経験を生かした子どもと家庭のサポートが効果的とのことであり、今後の展開を考えた上でも、人材の確保についてしっかり取り組む必要がある。

校内サポートルームの各学校への設置や、学校現場からの要望も多い午後1時以降の開設は、人材の確保に伴う予算の確保が必要であるが、議会としても国・県に働きかけをしていかなければならない。

〔赤星委員〕

教室に入ることがつらく学校に来られなかった子どもたちが、サポートルームの仲間たちに自分の気持ちを表現したり、仲間の様子・表情から自分の行動を振り返り折り合いをつけたりする様子が見られるようになったとのことであった。リラックスできる雰囲気でも今日することも自分たちで決めるといふ校内サポートルームは大変重要な居場所であり、全校設置を目指していければいいと思う。一方で、指導員の勤務時間が午後0時15分までで給食時間の教員確保が難しく、開設時間も午後1時までと制限されてしまうので、指導員が確保できるだけの予算を県や国にも求めていく必要があると考える。

令和6年10月22日（火）富山市立堀川南小学校

